

SL3

### アイヌの伝統的世界観と文化伝承

ほんだ ゆうこ  
本田 優子  
札幌大学 教授



私は北海道大学を卒業後、萱野茂先生（1926～2006）の助手として平取町二風谷に移り住み、二風谷アイヌ語教室の講師を務めるとともにアイヌ語辞典編纂のお手伝いをしていました。11年間の生活の中での学びと気づきが私の世界観に決定的影響を与えました。現代に息づく様々なカムイたち、分配を基本とする共同原理 etc…。日常生活の中でアイヌ文化を学んだ者として、私は現代社会に流布しているアイヌ民族への誤解を正すことを自分の役割だと考えるようになりました。

- ①アイヌ民族はいつから北海道に？ ⇒この島の縄文人の子孫
- ②アイヌ民族は閉鎖的集団？ ⇒アクティブな交易民
- ③アイヌ民族はもういない？ ⇒想像されているよりも多くの人口

私は二風谷で暮らしていた時、二つのことを願っていました。1. アイヌ民族の若者に大学進学をの道をひらきたい。2. 民族文化を学ぶ場を提供したい。この2つの願いを実現するものとして、2010年にウレシパ・プロジェクトを創設しました。本年7月に民族共生象徴空間「ウポポイ」が白老にオープンしましたが、これまで31名のウレシパクラブ卒業生のうち、13名が職員として活躍しています。

現在は、新たに以下の二つを課題としています。1. アイヌ語をアイヌ民族の日常生活の中に取り戻したい⇒先住民族言語復興の先駆者であるハワイアンやマオリの人々に学んでいます。2. アイヌ文化を産業化するという若者たちの活動をサポートする⇒ウレシパクラブOBが株式会社を立ち上げました。

最後に、現代社会におけるアイヌ文化の価値について私見を述べたいと思います。「コロナ後の世界」をアイヌ文化の世界観から考えてみませんか。私はいつも学生たちにこう言っています。「アイヌ文化は最先端」！

#### 略歴

1957年金沢市生まれ。北海道大学日本史学専攻課程を卒業後、平取町二風谷に移り住む。11年間、萱野茂氏（1926～2006 二風谷アイヌ文化資料館館長・元参議院議員）の助手としてアイヌ語辞典の編纂に携わるとともに、二風谷アイヌ語教室子どもの部講師を務める。2005年、札幌大学に着任。2011～2017年、副学長。2010年、アイヌの若者たちに大学進学をの道を開くとともに民族文化を学ぶ場を提供するウレシパ・プロジェクトを創設。（一社）札幌大学ウレシパクラブ代表理事。『二つの風の谷—アイヌコタンでの日々—』筑摩書房 1997、『伝承から探るアイヌの歴史』（編著）札幌大学附属総合研究所 2010 など。